

聾学校早期教育部門0～2才教育相談の学習形態(1)

正会員 ○平根 孝光*1

聾学校の建築計画に関する基礎的研究5

萩田 秋雄*2

□研究の目的

聴覚障害乳幼児に対する指導は、乳幼児に適した聴力検査機器および検査法の充実が図られたこともあり、現在では発見され次第0才児からでも補聴器を装用し、聴覚を最大限に活用する学習指導が開始されるまでになっている。この0才～2才児期は、聴覚の発達の著しい時期であり、聴覚の発達の適時性からみても、聴覚活用学習を通して聴覚の素地をつくり、その素地をもとに言語の獲得が始まる時期にあたる。聾学校では、この時期の教育効果が高いことから、学校教育法上、2才児以下の乳幼児は対象外となっているものの、教育相談という形で0才～2才児に対する指導が行われている。

本報告では、0才～2才教育相談での学習形態にみられる特性を明らかにすることによって、聾学校早期教育部門の建築計画に資することを目的としたものである。

□調査対象と方法

調査対象は、全国聾学校107校のうち、幼稚部を設置している聾学校全校(100校)を対象に、調査票記入方式による実態調査を行った。幼稚部を設置している聾学校を対象としたのは、年齢及び指導上との関連において、幼稚部を設置している聾学校でのみ0才～2才児を対象とした教育相談を行っているからである。調査は、平成7年7月で、有効回答率は79%である。

□0才～2才教育相談の設置状況

0才～2才教育相談に乳幼児が在籍している聾学校は、9.5割(76/79校)に達しており、殆どの幼稚部設置校で指導が行われているといえる。

□学年編成タイプ別の在籍学年の状況

教育相談設置各校によって在籍学年の構成が異なることから、学年編成タイプ別でみた在籍学年の状況を示したものが[表-1]である。学年編成タイプは、0才～2才児のうち1年齢児(以下学年という)のみ在籍している1学年編成タイプ、2学年が在籍している2学年編成タイプ、全学年が在籍している3学年編成タイプの3タイプに分類でき、各々24校、27校、25校となっている。これをみると、3学年編成タイプを除けば、学年編成が少なく又学年が低くなるほど在籍児のいる聾学校が少なくなっているのが分かる。

□教育相談の在籍乳幼児数

学年編成タイプ別でみた在籍乳幼児数を示したものが[表-2]である。乳幼児数は、0才児が48人、1才児157人、2才児298人、全体で503人である。学校当たりの学年別平均人数は、1才児1.6人、2才児2.8人、3才児4.4人となる。

□週間指導形態

聴覚障害乳幼児期の指導は、乳幼児はもちろん母親に対しての指導も主となることから、全ての学校で学習集団の主構成員として母親が参加している。したがって、学習集団としては、母親+聴覚障害乳幼児+教員が基本集団となり、その基本集団を基に個別及びグループによる指導が行われている。

この個別及びグループ指導の週間指導形態を学年編成タイプ別でみたものが[表-3]である。

週間の指導形態としては、個別+グループの指導形態が6割弱と最も多く、個別指導のみが3割強、グループ指導のみが1割強となっており、個別+グループでの指導形態が、ほぼ主流となっているといえる。

学年別での指導形態をみると、0才児では、3学年編成タイプで個別+グループの形態も若干みられるものの、全体としてはほぼ個別指導のみで行われているといえる。

[表-1] 0～2才教育相談における学年別在籍校数(校)

| 学年編成タイプ | 分析対象校数 | 0才 | 1才 | 2才 |
|---------|--------|----------------|----------------|----------------|
| 1学年編成 | 24 | (2) (8.3) | (7) (29.2) | (15) (62.5) |
| 2学年編成 | 27 | (3) (11.1) | (24) (88.9) | (27) (100) |
| 3学年編成 | 25 | (25) (100) | (25) (100) | (25) (100) |
| 計 | 76 | (30) (39.5) | (56) (73.7) | (67) (88.2) |

* () は %。

[表-2] 0～2才教育相談における学年別在籍人数(人)

| 学年編成タイプ | 分析対象校数 | 0才 | 1才 | 2才 | 計 |
|---------|--------|----|----|-----|-----|
| 1学年編成 | 24 | 3 | 12 | 48 | 63 |
| 2学年編成 | 27 | 5 | 57 | 111 | 173 |
| 3学年編成 | 25 | 40 | 88 | 139 | 267 |

Learning formation of 0-2 years old section in the Deaf School (1)

A basic study on architectural planning for the Deaf School 5

HIRANE Takamitsu et al.

つぎの1才・2才児では、個別+グループの指導形態が最も多くを占めているが、また、個別のみでは1才児が、グループのみでは2才児が多くなる傾向も読み取れる。

それら指導形態の週間の指導回数は、個別+グループの指導では個別1回+グループ1回が6.5割強と最も多く、次いで個別1回+グループ2回の1.5割強となっている。一方、個別指導のみ、グループ指導のみではどちらも週1回が最も多くなっている。

これらのことから、0才～2才児教育相談では、聴覚障害乳幼児+母親+教師を基本集団とし、個別指導及びグループ指導が行われている。0才児では個別指導を重視した指導が行われ、1才児で個別+グループの指導形態へと徐々に移行し、2才児ではほとんどが個別+グループの指導形態となるといった基本的な指導形態をみることができよう。また、週間の指導回数は、個別、グル

ープ指導のみが週1回、個別+グループも週各1回が大半を占めているといえよう。

□主な指導場所

0才～2才教育相談の主な指導場所を学年編成タイプ別で示したものが[表-4]である。

学年編成タイプで見ると、1学年編成タイプの3校以外では教育相談専用室は持っているものの、殆どの聾学校が専用室1室となっているのがわかる。また、プレイルーム、個別指導室、聴能室等の幼稚部諸室等も指導の際に使われていることから、教育相談専用室だけでは不足していることがわかる。

この教育相談の指導場所に関しては、学校教育法上、対象外となる2才以下の乳幼児を対象としていることもあり、指導内容に対応した指導室の整備は遅れているといえよう。

[表-3] 0～2才教育相談における週間指導形態

(校)

| | 個別指導のみ | | グループ指導+個別指導 | | | | | | グループ指導のみ | | | |
|-------|-----------|--------|-------------|--------|--------|-------|--------|-------|-----------|--------|--------|-------|
| | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 2 | 3 | |
| 1編 0才 | (50.1) | (50.1) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 1編 1才 | (71.4) | (14.3) | - | - | - | - | - | - | - | - | (14.3) | - |
| 1編 2才 | (13.3) | (20.0) | (26.6) | (13.3) | (6.7) | (6.7) | - | - | - | (6.7) | - | (6.7) |
| 2編 0才 | (100) | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| 2編 1才 | (29.2) | (4.2) | (37.4) | - | (8.3) | - | (4.2) | - | - | (8.3) | (4.2) | (4.2) |
| 2編 2才 | (3.7) | - | (58.9) | (3.7) | (22.2) | - | (11.1) | - | - | - | (3.7) | (3.7) |
| 3編 0才 | (64.0) | - | (16.4) | - | - | - | - | - | - | (16.4) | (4.0) | - |
| 3編 1才 | (16.4) | - | (52.0) | (4.0) | (4.0) | (4.0) | - | - | - | (12.0) | (4.0) | (4.0) |
| 3編 2才 | - | (4.0) | (60.0) | (8.0) | (16.4) | (4.0) | - | (4.0) | (4.0) | - | - | - |
| 計 | (25.5) | (4.6) | (38.6) | (3.9) | (9.2) | (2.0) | (2.6) | (0.7) | (0.7) | (16.5) | (3.3) | (2.6) |
| | 46 (30.1) | | 88 (57.5) | | | | | | 19 (12.4) | | | |

* グループ指導、個別指導は回/週。
* () は %。

[表-4] 0～2才教育相談における主な指導場所

(校)

| 学年編成タイプ | 分析対象校数 | 教育相談専用室 | | | | 幼稚部用 | | | | その他 | その内容 |
|---------|--------|---------|----|---------|--------|------|-------|--------|-----|-----|-------------|
| | | 教育相談室 | 教室 | 専用デモホーム | プレイルーム | 教室 | 個別指導室 | プレイルーム | 聴能室 | | |
| 1学年編成 | 24 | 20 | 1 | - | - | 1 | 1 | 2 | 2 | - | |
| 2学年編成 | 27 | 25 | 2 | 1 | - | 1 | 3 | 4 | 3 | 2 | 職員室コーナー・ホーム |
| 3学年編成 | 25 | 20 | 5 | - | 1 | - | 3 | 3 | 1 | 1 | デモホーム |
| 計 | 76 | 65 | 8 | 1 | 1 | 2 | 7 | 9 | 6 | 3 | |

*1 筑波技術短期大学 助教授・芸術 Assoc. Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tsubota college of Technology, M. art
*2 筑波技術短期大学 教授・工博 Prof., Dept. of Architectural Engineering, Tsubota college of Technology, Dr. Eng